

個別施策

- D2-1 ごみ排出量の削減とリサイクルを推進します
- D2-2 廃棄物の適正処理と処理施設の整備を進めます

ア 施策の目的

市民・事業者・行政等、すべての主体が、ごみ減量・リサイクルに対する意識を高め、循環型社会の形成に取り組んでいる。

イ 基本施策の評価

D b 目標を達成していないが、目的達成に向けて概ね順調に進んでいる

ウ 成果指標（「↑」は目標値を上回ることが望ましい指標、「↓」は目標値を下回ることが望ましい指標）

指標名	基準値 (時期)	区分	H28	H29	H30	R1	R2	
リサイクル率 ※1	15.3% (27年度)	↑	目標値	16.0	17.0	18.0	19.0	20.0
			実績値	14.9	14.4	14.1		
			達成率	93.1%	84.7%	78.3%		
ごみの1人1日 当たりの排出量 ※2【補助代替指標】	1,001g (27年度)	↓	目標値	990.0	980.0	970.0	960.0	950.0
			実績値	977.0	974.0	973.0		
			達成率	101.3%	100.6%	99.7%		

※1 リサイクル率（資源化量+集団回収量等） / （ごみの総排出量+集団回収量等）

※2 ごみ減量に係る取組みを評価するため、補助代替指標として、ごみの1人1日当たりの排出量を記載する。

エ 評価結果の妥当性

本部会での議論を踏まえて考えると、評価結果については妥当であると判断する。

オ 審議会における政策評価に関する意見

- 何のためのごみの分別で、何のためのリサイクルなのかという市民にとっての目的が十分に伝わっていないことが問題である。
- ごみの内訳に関する分析が必要ではないか。資源化できる種類のごみが減少しているのであれば、当然リサイクル率は伸びない。ごみの内訳とリサイクル率に関連があるのか把握をしておくべきではないか。

カ 審議会における施策推進に向けた提案

- 新工場ができたことで、ごみの分別に関する様々な情報が市民やリサイクル推進員の中にある状態で、何が正しいのか分からないという意見もある。これまで以上に周知徹底を図るための検討が必要である。

キ 次期総合計画の策定に向けた意見

- 施策の目的としては循環型社会の形成であるが、実施されている事業としては、ごみを減らすことが一番にきている。リデュースとリサイクルだけでは循環型社会の一部であって、リユースの部分も大きく関係するので、次期計画では4Rがきちんと反映された施策を検討してもらいたい。
- ペーパーレス化やフリマアプリの利用などの傾向があることで、施策の効果がより見えづらくなっているという状況を踏まえ、今後を考えなければいけない。
- 市全体を表す指標も大事だが、行政内部の指標としてペーパーレス化を検討できないか。